



# 月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番

98.3.9 No. 4748.

## 「結託体制」こそ (技術断層・年令構成の歪み)

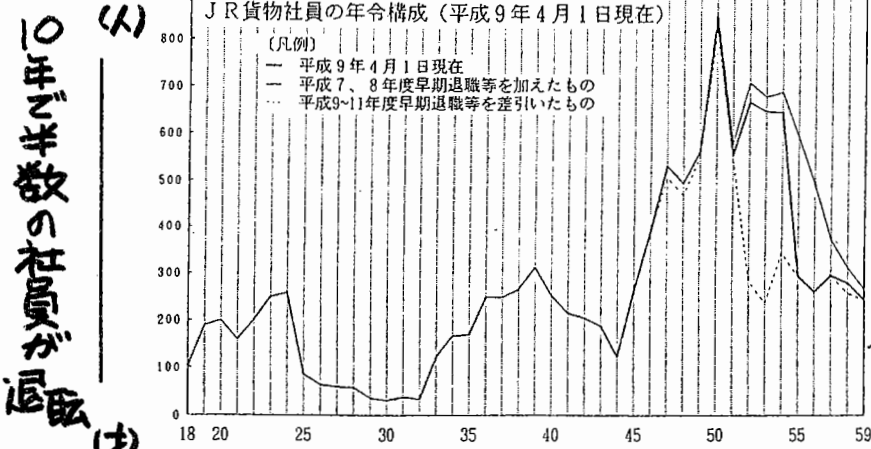
# 運転保安崩壊の元凶だ!

### 【四七四三号より続く】 分割・民営の結果

技術力の養成、技術継承という課題を崩壊させた最大の要因は何よりも、国鉄分割・民営化攻撃そのものにある。

分割・民営化攻撃の過程で吹き荒れたのは、動労千葉や国労の解体を狙った徹底した差別・不当労働行為と、ぼう大國鉄労働者の首切りと、そのための大合理化攻撃であった。

83年度当初三五八〇〇人であった国鉄の所要員数が、87年のJ R発足時には一八三〇〇人まで削減されたことを見れば、その合理化・要員削減攻撃のすさまじさは歴然としている。わずか4年間でまさに半減されたのである。



10年間で半数の社員が退職

こうした要員削減を背景に、

首切りの最大のターゲットにされたのは高齢者であった。J R発足時には50歳以上の労働者が全くいないという、驚くべき状態であったことを見れば明らかなどおり、高齢者に対する首切りは徹底して行われた。

ここまで徹底した高齢者の首切りが貫徹できた背景には、旧動労J R総連がその先兵になつたという事情がある。旧動労は、当時「首切り二本柱」と言われた、「出向・一時帰休・早期退職」に率先して協力し、多く動労職場で、高齢者の靴に水を入れる、ロッカーなどに「後進に道を譲れ」との落書きが行われる等の陰惨ないやがらせまで行われたのである。

しかもその一方で国鉄は、「経営再建」を理由に、82年採用を最後に新規採用をストップしており、J Rの発足後、91年に採用を再開するまで8年間にわたって、新規採用を行わない状態が続けられた。

### 技術断層・年令構成

このような無謀な合理化と首切りの結果生みだされたのは、急激な要員削減のために、車両や保安設備の検査周期の延伸や省略等、直接的な安全の切り捨てが次から次へと強行されたことにとどまらず、鉄道輸送業務の遂行にとって決定的とも言えるほどの技術断層の深刻化、年令構成の歪みであった。

また、技術断層という面ではなく、分割・民営化攻撃の過

程で、電力・通信などをはじめ、

他のどの企業に行つても通用する第一線の技術力や資格を持つた層がぼう大に「転職」していったという事情が重なっている。

今、この技術断層の深刻化・年令構成の歪みという問題が、爆発的に表面化しようとしている。その第一の理由は、何よりも「大量退職時代」が始まったことにある。別掲のグラフは、J R貨物の97年4月1日現在の年令構成表だが、今後10年間で約半数の社員が退職年令に達する。当局も、今後の必要要員の確保について、何ひとつ展望を明らかにすることができない状態なのである。こうした現実にはJ R各社とも全て共通している。

### 危機は増幅された

しかし、より大きな問題は、この10年間、J RとJ R総連の結託体制によつて、このような危機的な現実が、より一層増幅されてきたことにある。国労や動労千葉破壊を一切に優先させる労務政策が、年令構成の歪みに輪をかけてきたことで、技術力の養成・継承という課題を完全に崩壊させてしまったのである。

この辺の具体的現実については、この間「月刊動労千葉」で明らかにしてきたので繰り返すは避けたいが、経営トップの姿勢から、各系統の技術力の養成体系のあり方、職場段階での日常的な業務遂行・指導のあり方まで含め、差別と不当労働行為によつて根幹をなす部分が、ズタズタに切り裂かれてしまっている。

この間、運転士の問題を中心

に触れてきたが、20年近くの間、新規採用者すらほとんど入っていない検修・保線・電気等の職場の現実はいよいよ深刻だ。

しかも、J R総連が一切の合理化攻撃に率先して協力するということを背景にして、J R発足後も要員削減・労働強化・多能工化やスピードアップは、息つく間もなく襲いかかっている。技術断層の深刻な危機という事態のなかで、危険要素が次々と持ち込まれ、結託体制による差別と不当労働行為が手を振つてまかりとおる、——これがJ Rの現実なのである。

### 結託体制こそ元凶

大月駅事故をはじめ、この間の相次ぐ輸送混乱、車両や保安設備等の事故多発という事態の背後には、こうした現実が横たわっている。分割・民営化の強行にはじまり、現在の職場の現実まで含め、まさに、J RとJ R総連・革マルの結託体制こそが、運転保安崩壊の元凶である。

しかも、矛盾が本格的に噴きだすのはこれからだ。J Rは、一年間の退職者が、東日本でピーク四五〇〇名、貨物で八五〇名という現実に近いレベルを超えるように、これまでのレベルを超えた大合理化攻撃をおし進めようとしている。鉄道事業の全系統に及ぶ外注化を強行するといふのだ。安全が根底から崩壊するのは火を見るよりも明らかだ。全力で反合・運転保安闘争に立ちあがろう。J RとJ R総連の結託体制を打倒しよう。